

ひのほら 議会だより

2

2017.2.1
No.148



ジュニアスキー教室（1月4日～6日開催）



目 Contents 次

P.2 | 村提出議案を可決 平成28年第4回定例会

P.4 | 議案と議決結果

P.5 | 各委員会報告

P.7 | 一般質問 8名 12問

このようなことを審議いたしました

平成28年第4回定例会

11月28日～12月12日の15日間、開催し、村長提出案件11件が提出され、すべてが原案どおり可決されました。

条例

議案第78号

檜原村特別職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

(説明)

特別職員の期末手当の支給率を引き上げるための改正を行なうものです。

※特別職員とは村長、副村長、教育長になります。

議案第81号

檜原村国民健康保険条例の一部を改正する条例

(説明)

村民税で分離課税される特例適用利子等の額又は特例適用配当等の額に係わる所得を国民健康保険税の算定及び軽減判定に用いる総所得金額に含める改正を行うものです。

議案第82号

檜原村営住宅条例の一部を改正する条例

(説明)

建設中の藤倉住宅を追加するための改正を行なうものです。

規約

議案第83号

東京都町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約

(説明)

公平委員会に西東京市、柳泉園組合、多摩六都科学館組合が新たに加入することに伴う改正です。

補正予算

議案第84号

平成28年度檜原村一般会計補正予算(第4次)

(説明)

補正額 1千254万5千円を減額し、総額を38億7千256万2千円としました。

議案第86号

平成28年度檜原村簡易水道特別会計補正予算(第3次)

(説明)

補正額318万6千円を増額し、総額を2億585万8千円としました。

議案第85号

平成28年度檜原村国民健康保険特別会計補正予算

(第3次)

診療施設勘定(第3次)

(説明)

事業勘定

補正額44万3千円を増額し、総額を4億2千77万6千円としました。

議案第88号

平成28年度檜原村介護保険特別会計補正予算(第3次)

(説明)

補正額656万3千円を増額し、総額を5億4千69万円としました。

診療施設勘定

補正額110万円を増額し、総額を2億2千562万4千円としました。

陳情第5号 調査願い・檜原村の児童福祉についての陳情

賛成討論

吉川 洋

総務常任委員会は本陳情の趣旨、それから理由を審査する所管の委員会であるにもかかわらず、「この陳情内容は行政に直接聞けばよい」ということで否決された。

しかし、住民に対して行政に直接聞けばいいなんていうことを委員会や議会が言ってしまうたらまさに議会の自殺行為である。村の人口減少が続いているなか、子育て支援や保育については人口の問題とも密接に関係がある。2千300人弱の人口しかない村であるからこそ、村民と議会は一体となって取り組まなければいけない。このような陳情を否決してしまうということは、まさに広く村民に対しての落胆を与え非常に悪い影響を与えてしまう。たった

反対討論

清水 兵庫

一人の陳情、請願であっても議会はしっかりと受け止めるということを示す意味でもこの陳情については採択をすべきである。

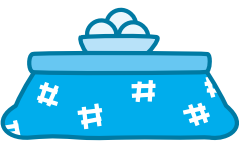
本陳情は、議会に調査・報告を求めている。これが、地方自治法100条ほか複数に規定されている、議会が議決して行う調査に該当するか、否かである。本陳情は、総務委員が審議した結果、この調査に該当しないものと判断した。また、地方自治法第109条第2項に基づく常任委員会の持つ調査権は、審査のためのものであり、この委員会審議をもって、本陳情の調査・報告にはなり得ないものである。

本陳情の調査は、個人で行える範囲であり、陳情者・住民など誰でも行え、議員個人が行う調査権と同様である。よって、本陳情を不採択とすべきものとしての討論とする。

反対討論

峰岸 茂

本陳情は議会に調査・報告を求めている。この調査は委員会のための調査とは違い議決により行うものと考ええる。本陳情での調査は、陳情者や住民が個人でも十分行われる範囲内のものであり、議決を経て議会が行うべきものである。



請願・陳情についてのお知らせ

請願は、国民に与えられた権利として憲法に定められており、国や地方公共団体、国会、地方議会に対して、誰でも希望・要望することが保障されています。

請願は、その趣旨に賛同する議員の紹介が必要です。

陳情は、議員の紹介がなくても提出できます。

請願書（陳情書）の記載方法等については、議会事務局までお問い合わせください。

☎ 598-1011

平成28年第4回定例会で審議された議案と議決結果

議長 森田ちづよ ○=賛成 ×=反対

区分	議案名		議員名							議決結果	
			浜中 由造	中村 賢次	吉川 洋	峰岸 茂	清水 兵庫	山崎 源重	山口 和彦		清水 満男
条例	第78号	檜原村特別職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第79号	檜原村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第80号	檜原村税賦課徴収条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第81号	檜原村国民健康保険税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第82号	檜原村営住宅条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
規約	第83号	東京都市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
補正予算	第84号	平成28年度檜原村一般会計補正予算(第4次)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第85号	平成28年度檜原村国民健康保険特別会計補正予算(事業勘定第3次、診療施設勘定第3次)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第86号	平成28年度檜原村簡易水道特別会計補正予算(第3次)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第87号	平成28年度檜原村東京都都民の森管理運営事業特別会計補正予算(第3次)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第88号	平成28年度檜原村介護保険特別会計補正予算(第3次)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
陳情	第5号	調査願い・檜原村の児童福祉についての陳情	×	×	○	×	×	×	×	×	不採択

各委員会報告

総務委員会報告

総務委員会は12月5日に開催し、1件の陳情について審議を行いました。

○陳情第5号 調査願い・檜原村の児童福祉についての陳情

審査結果 不採択

本陳情の趣旨は「新たな女性知事が誕生し、保育制度にも改革が必要だと言及され、すでに待機児童対策については特区制度などの活用による実行に踏み込んだと報道された。

檜原村においても東京都と連動する行政を行なっていることに鑑み、さらに村の実情にあった見直しが必要であるとの認識において、調査をし、報告をお願いする。」とする内容です。

委員会では、村側より副村長・総務課長・企画財政課長・福祉けんこう課長の出席をいただ

き、委員からの意見を求め、慎重に審査いたしました。

審査の結果、「採択をして子育て支援などについて議会として調査報告すべき」という意見もありましたが、「今回の陳情に関しては福祉けんこう課に尋ねれば解答が得られる」「議会において議決して調査を行なうべきものではない。」「議会で調査する問題ではない」など本陳情を不採択とすべきという意見が多数を占めました。

よって、挙手による採決の結果「不採択とすべきもの」と決しました。

委員長 中村 賢次



議会を傍聴しませんか

傍聴される方は、議会事務局入口で「議会傍聴届」に必要事項を記入していただいた後「議会傍聴券」をお持ちになり議場へ入場してください。

お問い合わせは議会事務局へ ☎598-1011

産業建設委員会報告

産業建設委員会は12月6日に開催し、所管事務調査として2件の現地調査を行いました。

①板東沢丹田林道開設工事（東京都施
工）

板東沢丹田林道は上川乗地区側の板東沢と人里地区の丹田沢を通る東京都が施工している林道で、計画延長約7.2kmとなっています。

平成12年度から工事が進められており、平成27年年度までに約5.8kmが施工済みとなっており、今年度は268mの開設計画を予定しています。

また本林道は、都道第206号の対岸を走っており、開通の際には林業関係の利用にとどまらず災害時には都道のバイパスとしても利用が期待できるとの説明がありました。



板東沢丹田林道

②地域交流センター薪ストーブ設置工
事

契約金額 123万8千円
契約業者 (株)ディーエルディー

この工事は、地域交流センターの1階に新たに薪ストーブを設置したものです。

地域交流センターでは森の学校なども実施しており、訪れた方を暖かく迎え、さらに薪ストーブを広くPRすることができるとの説明がありました。

委員長 清水 満男



薪ストーブ

登壇8人 村政を問う

一般質問

12月議会の一般質問は11月28日に行われました。内容は、要約して受付順に掲載しています。

質問 通勤や買い物など自由に行動できる高齢者がいる一方、車椅子用の福祉車両や介護タクシーを利用しなければ行動できない方もいる。住民が安全で安心して暮らせる環境を構築する必要があると考え、以下の点について伺う。

介護タクシー利用等の助成制度創設について



峰岸 茂

議員

村の社会福祉協議会と協議していく

①車椅子用福祉車両の貸し出しが村でできないか。

②介護タクシー利用等の助成制度創設について

村長 ①現在では実施していないが、今後村の社協と協議していきたい。

②何らかの対応が必要と考えており、近隣市町の状況も踏まえ、検討したい。

質問 西多摩8市町村では5ヶ所の社協が福祉車両の貸し出しを、1カ所の社協が運転手付きの福祉有償運送業を行っているが、社協と貸し出しについてどのような協議を行う予定か。

福祉けんこう課長 西多摩に限らず、都内でも多くの社協が実施しているので、村の社会福祉協議会とも情報を共有化し、福祉有償運送事業及び福祉車両の貸出し事業について協議していく。

獣害対策について

猟友会等と協議しながら方策を考えていく

質問 現在でも獣害に対する苦情は多くあり、耕作意欲の低下により耕作放棄地がふえる懸念があるのでさらなる対策が必要と考え、次の点について伺う。

①現時点における獣害対策の現状について。

②今後の獣害対策はどのように考えているのか。

③捕獲した野生動物の活用方法について。

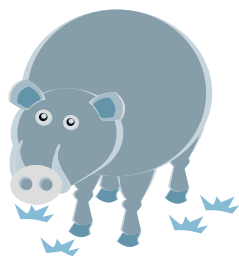
村長 ①猟友会とは各種有害鳥獣駆除委託、電気柵設置の組合へは設置材料を支給、個人の方へは獣害防止対策補助金を支給している。

②猟友会等と協議をし効果的な方策を検討していく。

③捕獲頭数や施設の設置基準、運営方法等について調査し検討する。

質問 獣害防止のためには遊休農地の活用や畑周辺の手入れがされていない林地の伐採事業な

ども取り入れたらと考えるが。産業環境課長 遊休農地の活用については遊休農地の所有者の方と耕作希望者とがマッチングができる組織や体制づくりができないか、現在検討している。畑周辺の林地の伐採事業については、伐採した効果や山林所有者の意向等を検討し進めていく必要があると考えている。



浜中 由造

議員



小・中学校の英語力向上のための教育施策について

英語、漢字、数学の検定料の全額公費負担の補助額は今後検討して行きたい

次計画の中で英語教育に重点を置いていて聞いていたが、授業改善の指導体制、学習環境の変更等の取り組みについて伺う。

②早い時期からの英語力向上のさらなる推進強化のために英語検定料の公的補助の考えは。

教育長 ①専門性のある中学校教員が小学校の授業に参加する取り組みを行っており、来年度以降、4、5、6年生の外国語学習や英語の時間の拡充、ネイティブスピーカーの配当時間の増加、パフォーマンステストの導入など実用的な英語力の育成を計画している。

②平成19年度から小学校で漢字検定、中学校では英語、漢字、数学の検定料に1検定ごとに年1回、千円を補助している。

質問 新学習指導要領では、平成32年度実施の小学校英語の教科化に伴う平成30年からの先行実施に向けて各自自治体は取り組みを始めている。そこでその推進に向けて以下の点について伺う。

①作成中の小・中一貫教育第2

公用車の安全運転運行と職員の交通安全意識の向上について

ドライブレコーダーを公用車41台に導入のため新年度予算に計上する

て飲酒運転の厳禁、事故防止を徹底している。

②新年度予算において導入する予算を計上するよう指示している。

質問 ドライブレコーダーの設置は事故状況の正確な把握、事故の抑止力の点でも有効である。また単価も安くなっている。また全車の取り付けを速やかにできないか。

総務課長 日常的に使用する車両41台に設置し、消防関係の車両へも必要があれば今後予算要求をしていきたい。

質問 日常の買い物や、通勤など、自動車による移動が主体となっていて、交通事故は安全で快適な生活を営む上での危険要因になっている。高齢者ドライバーや自転車の増加等に対応する新たな事故防止対策が求められるが、以下の点について伺う。

①村職員の交通安全意識の向上に向けての取り組みの現状は。

②意識向上と事故が起きた際の証拠・検証に役立てるために公用車にドライブレコーダーの導入ができないか。

村長 ①事業所として、交通安全管理者を年1回東京都交通安全協会の交通安全講習会に参加させ日頃の管理に活かしている。職員に対しては年1回交通安全講習会を行い、会議におい

て飲酒運転の厳禁、事故防止を徹底している。

山口 和彦

議員



3市町村（秋川流域）の観光振興について

3市町村で組織する観光まちづくり推進協議会での活動を充実させていく

質問 ①今後3市町村の観光振興をどのように考えているか。

②今後3市町村の観光振興に向けたイベント等は考えているか。

村長 ①3市町村ではそれぞれの特徴を活かした観光振興に取り組んでいる。また民間の観光

事業者等も含め、組織体制づくりをしていくことにより、観光振興につなげていけると考える。

②ジオパークツアーを行うための企画調整等を行っている。

質問 今回の質問は秋川流域正副議長会の3人の副議長で同様の内容の質問をしている。

①今後の観光振興を押し進める、為にどう考えているか。

②瀬音の湯、つるつる温泉、数馬の湯のスタンプリーはできないか。

産業環境課長 ①3市町村で組織する観光まちづくり推進協議会での活動を充実させていく。

②大多摩公益温泉連絡協議会の事業を踏まえ、3市町村独自で行うイベントとして、各市町村の担当者や各施設の管理者と協議し検討したい。

清水 兵庫

議員



間伐材を用いての防災対策について

調査・研究を進めていきたい

費用面などで進んでいない。そこで、間伐材を使い住宅内に頑丈で安全な「部屋」を作れないか、以下を伺う。

①間伐材を活用しての「耐震シェルター」の調査・研究が出来るか。

②①の結果として、金融支援と住民への対応はどうか。

村長 ①間伐材の利用が増えれば、資源の循環・山林の景観・防災面にも繋がりが安全が確保できると考える。木材シェルターの発想は、森林資源の利用方法として、検討に値する。担当者と調査・研究を考える。

②間伐材利用促進に効果的な「木材耐震シェルター」が、村民の尊い生命を守る施策に繋がると考える。多くの人が利用できるように、今後、施策研究をする中で、支援も視野に入れ、制度構築も考える。

質問 間伐材を使い防災、特に地震対策が行えないか。平成7年に発生した、阪神・淡路大震災で6千人の尊い命が奪われた。その9割が木造住宅であり、倒壊による圧死であった。

村では、耐震基準に達しない家が多く、耐震化が急がれるが、

中村 賢次

議員



求められる災害対策

村内の商店、飲食店と協定の締結を検討したい

村長 災害の発生が予想される気象状況の下では、休日、夜間であれば、防災担当5名程度待機させ情報収集に当たる。また、注意報、警報等の発令により警戒態勢、第一次非常態勢をとる。時間雨量が100ミリ以上となった場合は、係長以上の全職員で第2次配備態勢とし、更に大規模な災害が予想される場合や特別な警報が発表された場合、又は、一度の積雪が50cmを超える予報が出た場合は、第3次配備態勢として、全職員で対応している。

質問 戸倉以西の都道が土砂崩れや大雪で通行止めになった場合、村内の食料不足が危惧される。そこで、「かあべえ屋」をはじめとした既存の商店及び飲食店と、災害が発生した場合に食料品の抛出や、炊き出しをさせていただくといった協定は結べないか。

総務課長 協議し、協定締結の検討に入らせていただく。

質問 台風の接近や豪雨が予想されるとき、南岸低気圧等で大雪が予想されるときなどは、現在の村の地域防災計画に沿って村民の安全を確保すべく対応するものと考えているが、実際にはどのような形で行われるのか、又は行っているのか。

垣根を越えたスポーツ振興の推進はできないか

「心のバリア解消」に向けて勉強を進めたい

質問 ①村の中では、どんなスポーツが行われているか。

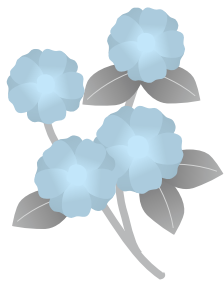
②交流を目的としたスポーツは現在行われているか。

教育長 ①把握しているものとして、ソフトボール、ゲートボール、グラウンドゴルフ等がある。スポーツ教室として卓球、バドミントン、ミニテニス、ペタンク等を、また、年に1回綱引き大会を行っている。

②村の単独事業で交流を目的として行っているものはない。

質問 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、成熟した東京・日本をアピールするには、「心のバリアの解消」が求められていると思われる。人口2千300人ほどの村だからこそ「心のバリア」を超えたスポーツ交流ができるかと考えるがいかがか。

教育課長 「心のバリアの解消」



に教育が果たす役割は大きいと考え、理解と親睦を深められる事業を行なっていけたらと考えます。

質問 福祉事業所などで行われているペタンクを積極的に普及させ、「垣根を超えたスポーツ振興の推進」に活用すべきと考ええるがいかがか。

教育課長 「垣根を超えたスポーツ振興」「心のバリア解消」に向けて、交流の方法等勉強を進めたい。

山崎 源重

議員



高齢者等外出支援導入の経過を知りたい

より利用しやすい事業を構築する

このできない交通不便地域での移送サービス導入に向け審議、検討をし、試行的ではあるが事業を実施することとなった。

②平成28年11月1日から実施し、既に診療所受診のために利用されている。

③対象地域は数馬・入間地区、人里・水口地区、湯久保。週1回の運行。

対象者は65歳以上又は身体障害者手帳等の交付を受けている、自宅から路線バスのバス停までおおむね500m以上離れ、自動車の運転ができない者、また同一家族内の者が自動車を運転できない者。

利用方法は利用者が檜原村社会福祉協議会へ予約をする。

質問 利用した人の感想を聞きたい。さらに免許証所有者について対象を広げて欲しい。

福祉けんこう課長 利用した人は、便利だと言っていた。家族の者が昼間仕事等で日中独居となる場合、免許証所有の有無にかかわらず利用が可能となるよう考える。

村長 ①昨年の山崎議員の質問を受け、デマンドバスを走らす

質問 昨年、質問した外出支援について左記の質問をしたい。
①今までの経過について
②動き出すのはいつか。
③対象地域、人員、利用方法や期間等は。

吉川 洋

議員



村の人口減少に歯止めをかけて未来に希望が持てる村にするための施策について

今後も村に住み続けたい人、住みたい人を増やすために施策を推進していく

質問 未来に希望が持てる村にするために5つの提言をする。

①武蔵五日市まで交通手段の新たな開発
②家主への家賃補助などによる空き家の活用による移住者誘致
③村らしい景観の創造とエコ

ツリーゾムの早期の実施

④村の存在をアピールする必要と情報発信の拡充

⑤財政調整基金を財政規律もって使うこと

村長 ①現在、2系統の南北の路線バスは今後も利便性の高いダイヤの見直し等を行っていく予定であるが、武蔵五日市駅までの交通手段の新たな開発は考えていない。

②空き家・移住対策は過疎対策・人口減少対策における最重要課題であり、今後は賃貸借可能な空き家の掘り起こしを行っていく。又、村への移住希望者を増加させるべく補助制度の変更も含め調査・研究していく。

③現在策定中のエコツーリズム全体構想に基づく、景観や施設整備についても進めたい。

④村のホームページを英語・韓国語・中国語に翻訳できる機能を追加し、役場庁舎等にWiFiを整備して情報発信に努めている。

⑤村の資源や観光基盤の整備等に基金の目的に沿って積極的に活用していきたい。

榎原村の教育のさらなる充実について

教育的には小中学校の1クラスは何人が望ましいのか

問 何人が望ましいのかは難しい質問

質問 榎原村の教育の充実のために3つの質問をする

①子どもの教育のために村を出てしまうケースがある。その対応をどのように考えているか。

②教育行政のトップとして小中学校の1クラスの人数は何人が望ましいか。

③教育長は子どもたちに夢を持つことの大切さを述べているが、教育長の教育的観点からの夢はなにか。

教育長 ①教育委員会では教育

のために村をでてしまうというデータを食いつまめないため、転出を食いつまめない。しかし、転出を食いつまめるための事業を施策として行っているわけではない

が、教育環境整備やさまざまな施策を行っている。

②国の規定では1クラス35人か

ら40人としているが、教科によつて少人数であるほうがよいケースもあるし、少ない人数では支障がある授業もあるので、何人が望ましいかは難しい。

③心豊かな村民を育む村づくりを目指し、新しい価値観の創造、生涯を見通した基礎教育の充実、全ての人が豊に生きる教育支援などが、私の夢という希望としている。



清水 満男

議員



村の有形・無形の民俗遺産を継承する方策について

古い建物等については必要に応じ調査したい

学校教育の中に取り入れる等できないか。

教育長 ①地名・屋号については歴史的課題もあり新たな調査は行わない予定。古い建物等については必要に応じ調査したい。

②小学校社会科の副読本として「私たちの榎原村」を学習に使用、また社会科見学として村内各施設の見学等実施している。

質問 ①郷土芸能の記録映像の中に経緯等折込んでいるのか。

②子供達がいきいき育っていくために昔の遊び等を学習に含んでいるか。

教育課長 ①保存会の会長等に語っていただき収録している。

②伝統的な遊びについては教材として取入れている。

質問 ①記録映像完成後は視聴が出来るとのことか。

②郷土芸能・地名・建物等のエコツーリズムの追加について。

教育課長 ①図書館、郷土資料館、各芸能団体に配布予定。

②次世代の子供たちに村の「民俗遺産」(村の暮しぶり)について伝える、引き継いでいくため、振興に努めたい。

ご意見をいただきました

9月定例会において1件、12月定例会において4件のご意見をいただきました。
いただいたご意見は真摯に受けとめ、今後の議会運営の参考にさせていただきます。
貴重なご意見ありがとうございました。

3月議会のお知らせ (予定)

- 定例会初日 3月 3日(金)
- 予算特別委員会 3月 8日(水)
- 3月 9日(木)
- 常任委員会 3月16日(木)
- 3月17日(金)
- 定例会2日目 3月21日(火)
- 定例会最終日 3月24日(金)

編集後記

昨年話題を集めたプロ野球の大谷翔平選手（北海道日本ハムファイターズ）。彼の代名詞「二刀流」は「両方やればいいのに」という母の一言がきっかけで生まれたという。今では大リーグも注目する二刀流も、初めは本人すら思いもしない挑戦だった。

「水平思考」という。両者が相まってこそ、思考は立体的となり、革新と飛躍を生み出す力になるという。

早いもので議員としての折り返し点の本年、新たな自分へと己を高め、変革に挑戦していきたいと思いません。

「これから、村民に分かりやすく、読みやすくをモットーに努めてまいります。」

ある記事に小学校の分数の授業で、4個のりんごを3人で均等に分けてくださるとの問題に、「ミキサーで全部ジュースにして、仲良く分けます」と答えた小学生の事が載っていた。その中で、教育者は「立派な正解です。先入観がないことは、可能性に満ちている。」と評していた。

皆様からのご意見等お寄せください。お待ちしております。

(浜中)

委員長 峰岸 茂
副委員長 清水 満男
委員 吉川 洋
委員 吉川 洋

前例を踏まえ、論理を積み上げる「垂直思考」に対し、既成概念にとらわれず、新しい角度から考えること